

名古屋市胃がん検診（内視鏡検査）についての説明並び同意書

【胃がん検診の目的と方法】

胃がん検診は、症状のない時期にできるだけ早く癌を見つけ、早く治療することを目的として行うものです。バリウムを用いる方法（胃エックス線撮影）と内視鏡を用いる方法（胃内視鏡検査）があり、いずれも有効性が証明されています。また、両者の方法には良いところと悪いところがあります。

【内視鏡検査の方法】

口または鼻から内視鏡を挿入し、食道・胃・胃十二指腸球部を内腔から観察し、病変がないかを確認します。異常がある場合には、病変の一部をつまみ（生検）、細胞の検査を行うことがあります。

なお、生検が行われた場合は、保険診療として別途請求があり、市の検診料金の自己負担金のほかに、保険診療の一部負担金（3960円～7470円）を追加してお支払いいただくこととなります。当日は健康保険証を持参して下さい。また、生検により粘膜に傷ができる場合がありますので、検査当日の食事はやわらかい消化のよいものを食べて下さい。過激な運動、長湯、旅行なども避けて下さい。

【偶発症】

偶発症が発生する頻度は、胃内視鏡検査は10万件に78件と全国調査により報告されています。この中には鼻出血などの軽微なものから入院例まで含まれています。現在、胃内視鏡検査による死亡事故は報告されていませんが、ごくまれに死亡の可能性もあります。

胃内視鏡検査では、以下の偶発症が起きる可能性があります。

《発生が皆無とはいえない偶発症》

- (1) 胃内視鏡により粘膜を傷つくことや、出血、穿孔（穴が開くこと）
- (2) 生検により出血、穿孔
- (3) 薬剤によるアレルギー（呼吸困難、血圧低下など）
- (4) 検査前からあった疾患の症状の悪化（症状が出ていなかった疾患も含む）

なお、当院では偶発症の防止のために十分な注意を払うと共に、偶発症が発生した場合には最善の対応いたします。

ふきあげ内科胃腸科クリニック 院長

上記の事項について、十分に理解しましたので、検査を受けることに同意します。

平成 年 月 日 受診者署名 _____

受診者代理署名 _____（続柄 _____）